No.217
2026年11月1日
滋賀県竜王町議会

りゅうおう

議会だより

とったぞー！秋のワクワク！



定例会報告 P2～ 令和７年度決算認定
特　　集 P5～ シリーズ「町議への道」
委員会報告 P6～ 大規模災害時の課題と対応
一般質問 P9～ 竜王町の今後の農業は

９月
定例会

定例会のあらまし



令和8年度9月議会が開催されました。
町政運営に係る条例改正や補正予算、令和7年度決算について審議しました。

令和7年度 決算を認定

一般会計

歳入総額
135億6,175万円

歳出総額
129億668万円



主な事業、質疑応答

竜王町DX推進計画に基づく取り組みの推進 等　2億562万円



総務部門



問 勤怠システム保守料の不用額が多いのはなぜか。

答 新システムへの切り替え時期を見直し、更新前の機能も一部継続して使えるよう協議したため、不用額が生じた。

竜王小学校移転新築整備などの推進　19億7671万円



教育委員会



問 英語検定の受験状況をどう見るか。



答 英語検定は受験者数が伸び悩んでいるので受験意欲を高める取組を進めていく考えである。

竜王小学校区学童保育所新築工事費 等　2億8152万円



住民福祉部門



問 献血推進事業や予防接種事業で残額が多い理由は。

答 骨髄移植関連の補助利用がなかったことや、新型コロナワクチン接種者数が想定を下回ったことなどによるもの。

バイオマス産業都市構想に基づくバイオマス関連事業 等　519万円



産業建設部門



問 新規就農者支援や環境整備費の内容は。

答 就農支援は採卵養鶏・施設園芸・露地野菜等で、環境整備費は国スポ開催に伴う街路樹の追加剪定などに活用した。

認定にあたっての意見・提言

意見

予算編成、事業の実施、結果の検証、その後翌年の予算に繋げる、
この一連の作業が、毎年毎年繰り返される内に、いつの間にかルーチン化して、
事業毎の検証が十分に出来ていないのではないかと危惧している。
「選択と集中」の概念は行政では馴染めないかもしれないが、職員ひとり一人の考え方、
取り組む姿勢次第で改革は可能になることをよく考えて頂きたい。

提言

決算を認定するにあたり、今後更なる改善を求める５点。

1. 大型事業に伴う将来の財政負担について、出来る限り明確に把握すること。
2. 事業の成果をより具体的に検討すること。
3. 不用額や委託料などの行政経費について、より厳格な検証を行うこと。
4. 安定した自主財源を確保すること。
5. 決算を次年度以降の行政改革に繋げること。



特別会計

国保（事業勘定）



歳入　10億7,425万6,249円
歳出　10億5,921万1,045円

問　特定健診の委託料が予算より少ない理由は。
答　対象者を3か年平均で見込み計上したが、実績が少なかったこと、また受診率向上対策は見積結果によるもの。

国保（施設勘定）



医科　歳入　820万8,158円
　　歳出　820万8,158円
歯科　歳入　5,763万6,639円
　　歳出　5,746万5,963円

学校給食



歳入　6,785万2,934円
歳出　6,735万896円

問　牛乳費が少額となった理由は。
答　牛乳の単価差ではなく、児童生徒数の減少により注文本数が減少したため。

介護保険



歳入　9億7,660万3,316円
歳出　9億3,660万2,734円

問　地域ケア個別会議が未実施だったことへの受け止めは。
答　職員体制が整わなかったためで、令和8年度は事例検討会の形で実施し、最大限取り組む。

後期高齢者医療



歳入　1億8,321万8,556円
歳出　1億8,252万5,546円

問　収入未済金の対応はどうしているか。
答　督促文書の送付に加え、必要に応じて自宅訪問し説明している。



交流・文教ゾーン 公園遊具設置事業



※イラストは完成イメージ図です

契約金額　8,958万4,000円

工期　令和8年9月29日～ 令和9年3月24日
施工場所　蒲生都竜王町大字綾戸地先

主な設置内容

児童用複合遊具（対象年齢6歳～12歳）		1基
幼児用複合遊具（対象年齢3歳～6歳）		1基
インクルーシブ遊具		2基
日除けベンチ		4基
ベンチ		8基
芝張	854㎡	など

多様な子どもたちが楽しめる遊び場づくりを進めます。



●土木工事一式（植栽、雨水排水、舗装工事…7415万2100円）
●建築工事一式（電気設備、機械設備工事…1億1990万円）

補正予算（一般会計）



1億5,263万9千円を追加
補正後の予算総額　101億8,976万6千円に

●主なもの
（歳入）
・普通交付税の追加交付　162,095千円
（歳出）
・農業水利施設の機能保全　10,000千円
・減債基金積立金　40,003千円
・財政調整基金積立金　74,849千円

シリーズ 町議への道　PART 1

選挙まであと10ヶ月
あなたも議員になるチャンス！！

来年９月は竜王町議会議員選挙です。



選挙のめいすいくん

今号から選挙までシリーズで選挙に関連する事をお知らせします。

第１弾は、選挙運動に係る経費について公費で負担する公費負担制度についてです。

対象となる候補者：供託物没収点※1以上の得票数を得た候補者
※1供託物没収点　有効投票総数÷議員定数×10分の１

公費負担の種類は大きく以下の通り。（公職選挙法および町条例による）

１．選挙運動用自動車の使用



①一般乗用旅客自動車運送事業者との契約（ハイヤー方式）
　64,500円（基準額）※2×５日＝322,500円
②一般乗用旅客自動車運送事業者との契約以外
　自動車の借入契約　16,100円（基準額）※2×５日＝80,500円
　燃料の供給契約　　7,700円（基準額）※2×５日＝38,500円
　運転手の雇用契約　12,500円（基準額）※2×５日＝62,500円
※2　１日当たりの契約額と基準額を比較しいずれか少ない方の額となる。

２．選挙運動用ビラの作成



　候補者がビラの作成を生業とする者と有償契約を締結し、選挙運動用ビラを作成した場合に対象となる。
７円73銭（基準額）※3×1,600枚（上限）※4＝12,368円
※3　実際の契約額と基準額を比較しいずれか低い方の額となる。
※4　作成枚数と上限枚数を比較しいずれか少ない方の数となる。

３．選挙運動用ポスターの作成



　候補者がポスターの作成を生業とする者と有償契約を締結し、選挙運動用ポスターを作成した場合に対象となる。
4,596円（基準額）※5×78枚※6＝358,488円
※5　実際の契約額と基準額を比較しいずれか低い方の額となる。
※6　作成枚数と78枚を比較しいずれか少ない方の数となる。

選挙に関するお問い合わせ先　竜王町役場２F総務課内選管事務局　0748-58-3714

総務産業建設常任委員会

調査 大規模災害時の課題と対応について



1　避難所の環境整備の充実のために

◆健康面への配慮や災害関連死を防ぐ観点からも生活環境の整備が重要。
◆寝環境を向上させ、プライベートな空間を確保。
◆トイレの環境整備。

今後の方針

◆指定避難所における良好な生活環境を確保する。
◆町と地域が連携し、住民の避難に対する意識向上に努める。

2　地域における自主防災力の向上／要配慮者（避難行動支援者）への対応

◆地域防災の担い手の高齢化・固定化・防災意識の低下が課題となっている。

今後の方針

◆要配慮者（避難行動要支援者）について、個別避難計画の策定と地域の自主防災活動を連携させ、支援体制づくりを進める。



3　災害関連死を防ぐための取組

◆施設・スペースの確保だけでなく,円滑に開設し受け入れることができるよう平時から施設との役割分担や開設手順等を明確にしておく必要がある。

今後の方針

◆専門人材について広域的な応援制度も活用した確保体制を検討する。
◆対象者の移送体制の確保についても併せて検討していく必要がある。

4　今後、取組む主な防災行政施策等

①防災アセスメント調査の再実施
②各種防災計画等の更新
③防災支援総合システム（罹災証明書発行、住家被害認定調査）の整備







主な質疑応答

問 備蓄目標について、食料は１万5,000食程度を目標として設定されたと思うが、現状充足できているか。

答 **竜王町備蓄計画を策定しており、最大避難者数に１日２食分として３日分を充足させている。１日の食事のうち１食分は自らで準備するものとして、必要となる食料数を備蓄している。**

問 大災害になると避難生活が長期間となってしまうことから、可能な限り日常に近い形で生活が送れるようにしていくことが一番重要だと考える。全国でも母子避難所が設置されたなどの先進的な報道も目にした。検討課題も多いと思うが、町の考えは。

答 **実際に設営された母子避難所や福祉避難所の報道を見たが、あらかじめ災害を想定して施設を整備し、物資を用意することは町の規模からみても困難である。しかしながら、災害関連死を防ぐ意味からも優先的に取り組むべきという思いを持っている。今回母子避難所はDMAT（災害派遣医療チーム）により設置されたように、協力を仰ぎながら最大限の災害対応を行いたい。**

委員会報告

教育民生常任委員会

調査 次期計画策定に向けた現状と課題について

1　竜王町高齢者保健福祉計画第10期計画（令和９～11年度）

≪第10期計画策定にあたり踏まえるべき状況≫

◆後期高齢者人口が増加する一方、要介護（要支援）認定者数は概ね横ばいで推移
◆要介護３以上の重度認定者が減少し、要支援者が増加
◆事業所においては、要支援者の増加など認定者の状態像による影響や、介護人材の高齢化が課題



認知症サポーターの証「オレンジリング」



認知症サポーター養成講座

2　第３期竜王町障がい者計画（令和９～14年度）　※計画期間を10年から６年に変更予定
第８期竜王町障がい福祉計画（令和９～11年度）
第４期竜王町障がい児福祉計画（令和９～11年度）

令和９年度以降の障がい者計画、障がい福祉計画および障がい児福祉計画を一体的に整備するもので、現計画においては基本理念に「ともに支え合い、安心して暮らせる、自立と共生のまち　竜王」を掲げ、次の３点を重点項目としている。

重点項目１　連携体制の強化（自立支援協議会の設置）

重点項目２　障害福祉サービスや支援の充実（放課後等デイサービスの拡充）

重点項目３　強みとなっている取組の継続（発達障がいのある人への支援等）

新たな計画については、住民および事業者に対し「共生のまちづくりに向けたヒアリング調査」を実施し、その結果から見える課題を踏まえ策定していく。

主な質疑応答

問 令和７年度に開始された就労選択支援の内容は。

答 **障がい者が働き方や就労先について、より良い選択ができるようアセスメント等を行い、本人の希望や就労能力・適正にあった選択ができるよう支援するものである。**

地域活性化特別委員会

調査 企業立地の計画と現状について

◆滋賀山面工業団地について

全10区画あり、９区画で立地・操業され工業団地全体で約400名の従業員が勤務している。

◆滋賀竜王工業団地について

７区画の大区画に対し６社の企業が操業されている。令和９年１月から新たに操業される１社については約440名の従業員が勤務される予定。本工業団地の全体従業員は約1,000名を超えることから、新たなバス停留所設置が進められる。

◆岡屋地区の産業団地整備事業について

令和８年２月に事業者が決定した。６月17日に岡屋自治会・事業者・竜王町で官民連携協定を締結された。都市計画区分の見直しが進められており市街化区域編入告示、用地買収・許認可手続き後令和13年の分譲を目指す。

◆小口地区の整備について

松ヶ丘入口付近2.1haにおいて民間事業者において物流倉庫等が計画されている。

主な質疑応答

問 滋賀竜王工業団地は町内から何人が勤務されているのか。

答 **詳細調査はしていないが、全体で約１割が働いておられる。**



町政 ここを問う!

9月定例会では11議員が27問の一般質問を行いました。

一般質問とは、議員が町長などの執行機関に対し、事務の執行状況や将来の方針などについて所信や疑問を質し報告や説明を求めることです。

ページ	質問者	質問事項
10	鎌田　勝治	・英語教育の更なる充実を ・竜王中学校と竜王西小学校体育館への早期の空調設備設置を
11	磯部　俊男	・自然災害発生に対する整備と対策は
	山田　義明	・生成AIの活用で町の未来を切り開くには
12	大橋　裕子	・有害鳥獣「イノシシ」への有効な対策は ・運転免許証自主返納者への支援、シニアカー購入助成を ※一時預かり事業「すくすく」のさらなる拡充を
13	若井　政彦	・旧竜王小学校の維持管理は ・職員の労働環境は大丈夫か ※令和９年度予算編成方針は
14	小西　久次	・竜王町の今後の農業は ・就学前教育施設等の協議検討は ※都市計画道路の整備検討を
15	三宅　政仁	・町内スポーツ団体への施設利用支援を ・新竜王小学校グラウンドの雨水対策は
16	森島　芳男	・中学校の通学路に道路照明灯を ・豊かなスポーツライフの推進を
17	中村　匡希	・成果指標に基づく決算評価を ・交流・文教ゾーンの今後の工程は
18	内山　英作	・読書で人生を豊かに ・新幹線新駅設置で地域の活性化と発展を ※（仮称）地域共生コミュニティセンターの設置を ※近年の大水害に耐えられる防災減災対策は
19	橘　せつ子	・祖父川上流でのPFAS汚染防止対策を ・「特定地域サービス」と第10期介護保険事業計画は ※食糧法改正で、今年の米価や次年度の見通しは ※学校教育に係る保護者の負担軽減を

※紙面の都合上、掲載しておりません。
QRコードから、全ての質問がお聴きいただけます。

各議員のQRコードをスマートフォンで読み取ると音声配信が聴けるよ



近江うし丸

次回の一般質問は 令和８年12月18日(金)予定

議員の質問順は町ホームページでご確認ください。

問い合わせ　議会事務局　電話　0748-58-3713



鎌田（かまだ） 勝治（かつじ） 議員

問 英語教育の更なる充実を

答 竜王モデル構築に向けて検討する

問 表題の件で、次の5点を伺う。
①「読む・書く・聞く・話す」4技能の評価は。
②小学校から中学校への学習状況等の引継ぎ方法は。
③英語で会話する機会や発信する活動の拡充は。
④幼から中まで各段階での到達目標は。
⑤幼小中一貫した「竜王町英語教育モデル」を構築する考えは。

答
①4技能毎に4段階で評価している。
②系統的幼小中英語推進事業における授業研究会で協議して引継ぎ。
③更なる機会の創出を研究。従来事業の拡充に加え、特別授業や海外中学生とのオンライン交流などを進めたい。
④学習指導要領を元に各学年で到達目標を設定。小学校では4技能全てで4グレード取得。中学校では全国平均を上回ること。成果の公表は、リーフレットで。
⑤グランドデザインを作成し、竜王モデル構築に向けて検討する。



竜王町子ども英語スピーチ大会の様子

問 竜王中学校と竜王西小学校体育館への早期の空調設備設置を

答 令和11年度までの設置完了を目指す

問 表題の件で次の4点を伺う。
①両校体育館に空調を設置した場合の費用と年間の維持費は。
②国の交付金や有利な起債などは検討したか。
③来年の予算に組み入れる考えは。
④両校の空調設置計画は。

答
①近隣市町を参考に1校あたりの実施設計費約900万円。設置工事費約1億5千万円、維持管理費約80万円。
②様々な交付金メニューから最適な財源を見極めて確保したい。
③今年度12月議会の補正予算で、先ずは西小の実施設計業務委託料の上程を目指す。
④西小は、令和9年度から令和10年度完了、竜中は、令和10年度から令和11年度完了を目標とする。



両校の体育館



磯部（いそべ）　俊男（としお）議員

問 自然災害発生に対する整備と対策は

答 町備蓄計画に基づく目標の確保と避難施設での住環境に充実を目指す

問
①大規模災害発生における町の対応は。
②災害時での備蓄状況、住環境の整備は。
③町の災害関連死対策は。

答
①災害発生に町地域防災計画に基づき、町災害対策本部を立ち上げ対応。
②「町備蓄計画」のもと想定避難者3，053人を基礎とし、食料（アルファ米等）、16，360食。飲料水13，332ℓ目標73％）、資機材（簡易ベッド572個、テント式パーテーション572個）、マンホールトイレ（9個）を整備。今後も備蓄計画に基づいて順次整備を進める。
③災害関連死予防対策として保健医療福祉体制の強化のため災害対策本部の組織体制を見直した。



地域の防災訓練



山田（やまだ）　義明（よしあき）議員

問 生成AIの活用で町の未来を切り開くには

答 様々なデジタルツールで課題に合わせ解決する

問
①生成AIの庁内での取組ルールの内容は。
②取組の中の優良事例は。
③庁内では今後、生成AIをどのように利用拡大していく予定なのか。
④今後、自治会や住民への利用展開は。

答
①・個人情報保護や情報資産管理の観点から個人情報や機密性の高い情報は入力しない。
・著作権侵害とならないよう、既存の著作物に類似する生成につながるような指示を入力しない。
・生成AIも誤った回答をするので、責任は職員自身になることを認識する。
②試行から日が浅いため優良事例を含めて、庁内でのノウハウを今後、蓄積していく。
③基本的な使い方を周知した上で、各職員が適時活用していくことを想定している。
④生成AIだけでなく様々なデジタルツールを活用して、課題に合わせた解決手段により利便性の向上に努める。



生成AIが描いた100年後の竜王町

問 有害鳥獣「イノシシ」への有効な対策は

答 「ほかパト」の増設を検討する

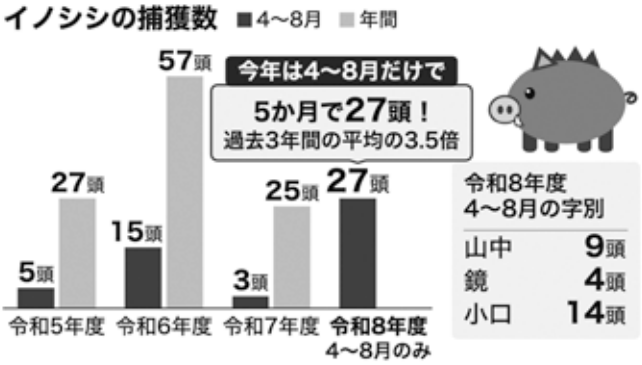


大橋（おおはし） 裕子（ゆうこ） 議員

問 今年度に入り、8月末までの山中、鏡、小口、山之上のイノシシ捕獲量は過去3年間の同じ時期の平均に比べ約3.5倍になっている。秋になるとさらに多くのイノシシが活動することが予想されることから、その対策を問う。

答 農業被害軽減と住民の安全確保のため、これまでから侵入防止柵の補修資材に係る補助金を予算化し、支援している。

令和9年度には町内1地区で緩衝帯整備を予定している。また、無線式捕獲パトロールシステム「ほかパト」を導入し、今年度で効果を検証し、増設を検討する。引き続き近隣市町との連携した対策に取り組む。イノシシ等の目撃情報の地図管理の体制整備を図る。



問 運転免許証自主返納者への支援、シニアカー購入助成を

答 竜王町独自の支援制度はなく、シニアカー助成もない

問 滋賀県には運転免許証自主返納高齢者支援制度があり、65才以上の高齢者が運転免許証を自主返納し、「運転経歴証明書」を取得することで、公共交通運賃割引等さまざまなサービス特典を受けられる。竜王町においてはどのような支援があるのか。またシニアカー購入時の助成は。

答 竜王町独自の支援制度は設けていないが、県の制度を通じ、75才以上の方で返納手続き時にICOCAカード等を持参した自主返納者に対し、WESTERポイント5000ポイントが進呈され、JR、路線バス、チョイソコりゅうおうにも利用できる。

シニアカーの利用適応については、利用者の身体状況や生活環境等により異なるため、現時点での助成は考えていない。

運転経歴証明書
金融機関等において本人確認証として有効なものと定められています。運転免許証と同じサイズ・材質で、氏名、生年月日、住所、番号（返納した運転免許証番号と同じ）等が記載されています。







若井（わかい）　政彦（まさひこ）議員

問 旧竜王小学校の維持管理は

答 居住ゾーン整備までは教育委員会で

問 竜王小学校が2学期より新しく開校された。
旧竜王小学校は中心核整備の居住ゾーンに位置しているが、当該地が直ちに整備されるスケジュール等は示されていない。
今後の当該地の維持管理についてどのように考えているのか。

答 当面の間は、教育委員会が主体となって不審者の侵入や火災予防の対策として、防犯カメラと機械警備による監視、定期的な見回りを行う。
また、旧竜王小学校で使用していた備品等については、町内教育施設や行政関係施設等において有効活用するとともに、希望があれば自治会等への譲渡についても対応したいと考えている。





利活用含めた維持管理も検討を

問 職員の労働環境は大丈夫か

答 意欲を持って働ける環境づくりに努める

問 人手不足、民間との人材確保競争の激化、災害等への対応、長時間労働の是正と健康維持など行政も働き方改革が求められている。職員の労働環境は大丈夫か。

答 職員の年間平均休暇取得状況は、数値目標の13日を下回っている。メンタル不調による休職は減少傾向にある。復職時は「慣らし出勤」など柔軟に対応している。イベントなどの業務集中時には、「庁内応援制度」により、他部署からの応援体制を構築し、業務負担の軽減を図っている。自己申告シート、人事ヒアリングをもとに、適正な人員数把握や職場環境の改善に活かしている。質の高い行政サービスの継続には、その担い手である職員の健康と働く環境づくりが不可欠であり、職場環境の整備と体制の充実に一層努めていく。



職員の元気はまちの元気につながる

問 竜王町の今後の農業は

答 米の生産拡大支援やブランド化を検討



小西（こにし） 久次（きゅうじ） 議員

問 「令和の米騒動」により消費者の米離れが生じ、大幅な生産者米価の値下げ、更には肥料・資材の高騰から経営が苦しく離農が進むことが予測される。町の考えは。
①新たな水田政策の具体的な内容は。
②地域計画の現在の状況は。
③竜王町での離農や新規就農者は。
④農業ビジョンの進捗状況は。
⑤町の農業施策の考えは。

答
①令和9年度から水田政策の見直しが行われ、収量に応じた支援や関連制度の見直しが予定されており、国から詳細が提示された後、農業者へ迅速な周知に努める。
②これまで、10地区で離農・入作・経営継承による変更があった。
③令和2年度から5年間で81戸減少した。農事組合法人でも解散の声がある。新規就農や経営継承の実績はあるものの、水田農業の担い手確保は厳しい。
④地域計画策定や基盤整備、観光農園の充実、直売所出荷促進、学校給食での町内農産物活用を重点的に推進している。
⑤バイオマス資源循環事業を推進し、バイオ液肥利用による米の生産拡大支援や付加価値向上に向けたブランド化を検討する。



検査待ちの26年産米

問 就学前教育施設等の協議検討は

答 令和9年10月頃迄には今後の方向性を決定したい

問 子どもの出生数は毎年約50人と年々減少しており、令和7年度は29人である。町は魅力ある学校・園づくりを目指し就学前協議会を設置し、保幼小連携を進め、令和4年に竜王こども園開園、令和7年に病児・病後児保育にも取り組まれている。町内の民間保育園との連携協議もされている。
令和14年4月にこども園が移転新築予定だが、関係機関との調整協議は進んでいるのか。今後の方針は。

答 あり方については、今年度から検討懇話会を設置した。大学教授や町内外の公立・私立の保育所・幼稚園の園長経験者等に委員を委嘱した。7月29日に第1回懇話会を開催し、新たな就学前施設に期待される役割や実施されるべき教育・保育等、検討を開始した。町内の民間保育所とも定期的に調整協議を進めており、今年度末には懇話会から本町に望ましいあり方の提言を受け次年度10月頃迄には町としての今後の方向性を決定したい。







町内のこども園・保育園



三宅（みやけ）　政仁（まさひと）　議員

問 町内スポーツ団体への施設利用支援を

答 住民便益を重視し、総合的に検討する

問 竜王町にも年5回の減免制度があるが、交流試合や大会の開催回数を考えると十分とは言えず、本町の施設利用の減少にもつながりかねない状況である。そこで次の3点について町の見解を伺う。

①町外チームの参加人数が町内チームを上回る場合は町外料金を適用する理由と目的は。

②現在の料金体系が、子どもたちの経験にどのような影響を与えていると認識しているか。

③今後、町としてどのような施設利用のあり方を目指していくのか。

答

①使用料は条例に定めている。負担の公平性を保つため町外料金を適用している。

②今までの取組が十分でない場合は、関係課とも検討が必要と考える。

③利用料金の工夫や施設の魅力向上の課題へ取組が必要と考える。



対外試合で他施設を利用する竜王SSS

問 新竜王小学校グラウンドの雨水対策は

答 引き続き降雨後の滞水状況を確認する

問 新竜王小学校の建設が完成に近づく中、降雨後のグラウンドに広い範囲で水がたまり、使用が難しい状況が確認されているため次の3点について伺う。

①雨水貯留施設について、その目的、貯留容量、雨水の流入方法および排水方法は。

②グラウンド表面に水をためることも想定か、地下の貯留槽で雨水を受ける設計か。

③新小学校グラウンドは、どの程度の雨量まで通常利用を想定して設計しているか。

答

①・②雨水を一時貯留し下流へ流すことで河川氾濫を防ぎ、浸水被害軽減を目的としている。50年に一度の大雨を想定。地下貯留及びグラウンド表面を調整池とする。地下貯留槽から5㎝角の排水出口から新川へ排水している。

③1時間当たり50㎜の降雨が続くと約1時間15分で満杯になる。





新小学校のグランウンドに水溜まりができており、体育授業や休憩時間の活用に影響が出ている

問 中学校の通学路に道路照灯を
答 危険性・安全対策を考え判断する



森島（もりしま） 芳男（よしお） 議員

問 令和元年第4回定例会で「町道山之上弓削線の通学路で川上から岩井名神下のトンネルまで街灯が一本もない状況であり、防犯上の面で危険が伴う。町として早急に街灯を設置すべき」と質問した。現在までこの区間に街灯は設置されていない。このことを踏まえ、次の点について伺う。

①前回の回答以降、再点検や関係者と検討されたのか。また、その結果は。

②安全・防犯的にも危険な場所について、設置の基準はあるのか。

答

①支柱や電線を設置する場所の確保がむずかしい箇所があり、あわせて生徒の下校が日没30分前の時間帯となっていたことから整備を見送った。早々に防犯灯を整備するには至らないが、当区画に照明器具を設置することが可能であるか研究する。

②設置基準は定めていないが、町道かつ通学路である交通需要の多い対象として、交通安全・防犯を主な目的に防犯灯を整備してきた。通行の状況や危険性・地域の要望のほか安全対策などを総合的に考え判断する。



街灯のない通学路

問 豊かなスポーツライフの推進を
答 町民の健康意識の向上を目指す

問 令和8年度教育行政基本方針に「第2期竜王町スポーツ推進計画の具現化」には、町民の健康意識の向上と健康寿命の延伸を目指し取り組むと記載されている。推進計画も今年度で5年目を迎えるが、次の状況を伺う。

①次代を担う子どもの体力向上とスポーツ機会の充実は。

②心身ともに健康で豊かな生涯スポーツの充実は。

③スポーツ環境の充実は。

④スポーツによる活力とにぎわいの創出は。

答

①幼児期から体を動かす楽しさを伝える取り組みを、竜王こども園で実施している。

②自治会で実施されるスポーツ活動には、推進委員を派遣し支援を行っている。

③公設のボルダリングジム等施設を整備し、健康づくりやスポーツ振興を図る環境整備を進める。

④スポーツ表彰を毎年実施する取り組みを通じて、スポーツによる活力と賑わいの創出をめざす。



ニュースポーツ「モルック」



中村（なかむら）　匡希（まさき）　議員

問 成果指標に基づく決算評価を

答 主要事業を中心に検討する

問 決算資料で目標値と実績値を併記した事業はわずかである。総合計画の成果指標の目標値と実績値を決算資料に示し、評価結果を次年度予算に反映する仕組みを設けてはどうか。

答 総合計画の進捗管理では、庁内で事業評価シートを作成し評価する仕組みとしているが、各課の自己評価にとどまり、議会へ報告する段階には至っていない。

目標値と実績値の併記は分かりやすい一方、作成に負担もあるため、主要事業を中心に既存資料を活用した資料のあり方を検討する。評価結果を予算編成に反映する仕組みもあわせて検討する。



報告書に目標と達成率も掲げて、より見やすく

問 交流・文教ゾーンの今後の工程は

答 101.2億円の範囲内を目指す

問 交流・文教ゾーンの総整備費は83億円から101.2億円に増えた。学校給食センター、コミュニティセンター、竜王こども園の今後の工程と、事業費がさらに増えた場合の見直しの基準を問う。

答 総整備費101.2億円の範囲内での整備を目指し、物価高騰等により現時点の想定を上回る場合は実質公債費比率等への影響を総合的に勘案して、必要に応じ整備内容や工程を検討する。

学校給食センターは令和11年度の供用開始を目標に、年度内に基本計画をまとめる。

コミュニティセンターは令和13年4月の供用開始を予定。

竜王こども園は懇話会の提言を受け、令和9年10月頃までに町の方向性を決める。



整備が進む交流・文教ゾーン

問 読書で人生を豊かに

答 若いときから読書に親しんでほしい



うちやま えいさく
内山 英作 議員

問 公益社団法人「読書推進運動協議会」のパンフレットには、「若い人たちが本を読まなくなったといわれ久しくなります。この年上の人たちのことばは、若いときにこそ本を読むべきであったという、後悔のことばでもあります。」と書かれている。

そこで、本町の読書活動推進に向けての取組を伺う。

答 読書習慣の形成と定着には、「子どもたちが楽しく本に親しめる環境の整備」と「〝読書は楽しい〟という意識づけ」が必要である。

本町では、家庭、学校園、図書館を含めた地域のそれぞれがともに連携しながら、さまざまな場面で子どもたちやその保護者に対して働きかけを行うよう取組を展開している。



町立図書館、約162,000冊所蔵



図書館を彩る展示コーナー

問 新幹線新駅設置で地域の活性化と発展を

答 現時点では、誘致活動は難しい

問 過去、南びわこ駅（仮称）の設置が中止になったが、まだ可能性はあると考えている。

全国で新駅設置により地域の活性化と発展に寄与した事例が多々ある中で、県内に新駅が設置されることは、その場所周辺のみならず近隣である本町にも地域活性化をもたらすと思うが、町の考えはどうか。

答 JRが主体的に新駅設置に取り組むことは考えにくい状況である。

また、請願駅としての実現には莫大な建設費を地元が負担する必要があり、県はもちろん関係市町での戦略的な取組や合意形成が必要であり、誘致活動は難しいと考える。



野洲市大篠原付近を走行中



橘（たちばな）　せつ子（こ）議員

問 祖父川上流でのPFAS汚染防止対策を

答 水質調査の実施は県と調整していく

問 県の2回目のPFAS調査で、茶釜川、祖父川、長谷川の9地点のうち7地点で高濃度のPFAS（国の指針値50ng／Lを大幅に越え270～73ng／L）が検出された。今後、県は汚染範囲の把握および原因の特定に向けて3回目の水質調査を実施予定である。そこで次の点について伺う。

①町として祖父川上流（山中橋）での定期的な水質調査を行うべきでは。

②町民の不安解消のため、祖父川流域の土壌や農作物についても調査をするべきと思うが。

答 ①県の調査結果から、祖父川山中橋地点は竜王町の入り口となる重要な地点であり、この地点での水質調査の実施については県と調整していく。

②農林水産省が河川水から国の指針値超えの「PFOS＋PFOA」が検出された滋賀県外地域で生産された水稲や野菜を調査した結果、定量下限値未満か、低い濃度であり、健康への懸念が生じる水準でないという見解を示している。現時点で土壌や農作物の調査を実施する考えはない。

調査地点	PFOS及びPFOA（ng/L）
茶釜川茶釜川橋	270
茶釜川水戸内橋	250
茶釜川大砂後橋	210
茶釜川高松橋	100
茶釜川一の瀬大橋	100
茶釜川荒太橋	120（6/24時点：59ng/L）
祖父川（茶釜川合流後）	73
祖父川（茶釜川合流前）	28
長谷川（祖父川合流前）	41

滋賀県による水質調査結果（7月15日）
※国の定める指針値：50ng/L

問 「特定地域サービス」と第10期介護保険事業計画は

答 本町は対象地域ではなく、現時点では直接的な影響はない

問 令和8年6月、社会福祉法の一部改正により、人口減少や介護サービス需要の縮小で介護サービスの維持が難しい地域を対象に、「特定地域サービス」等の指定制度が設けられた。介護保険サービスの基盤を崩すのではと危惧されるが、次の点について伺う。

①町はこの改正内容をどう受け止められているか。

②第10期介護保険事業計画策定での影響は。

③介護保険サービス維持、職員の確保、介護事業所の経営等に支援が必要と思うが。

答 ①介護サービス提供体制の縮小を目的とするものでなく、「高齢者人口が減少し、サービス需要が減少する地域」へのサービスの維持、確保に向けた選択肢の一つと受け止めている。

②本町は対象地域ではなく、現時点で直接的な影響はないと考える。

③令和7年度の調査結果から、資金面への不安や介護人材の確保、定着、育成が運営上の重要な課題と認識している。サービス提供体制の維持に向けた取組を検討していく。



町で説明時に使用されているパンフレット

竜王町議会広報

■発行・竜王町議会
■編集・議会広報特別委員会

〒520-2592 滋賀県蒲生郡竜王町小口3
☎（0748）58-3713

シリーズ あちこち まち周遊（めぐり）

岡屋

岡屋は平安時代の資料には【岡屋庄】として登場します。中世には荘園として栄え、その歴史を現在でも感じさせる文化財や神社が残されています。

また、岡屋は昔から地域のつながりが強く、祭礼や自治会活動も盛んで、地域の人々が力を合わせて、環境保全や伝統行事を大切に受け継いでいます。





住民さんからの声

竜王町では、定住対策のために旧竜小跡を住宅地として計画されていますが、今後、２世代、３世代の若者が生まれ育ったふるさとに定住できるようになることを期待しています。


岡屋カフェ（地域の人が集う場）


たんぽぽ広場・就学前子ども遊び場


勝手神社の春の大祭・子ども神輿


子ども人権学習


恩田祭


おたっしゃ教室

編集後記

秋も深まり、竜王町の木々も少しずつ色づく季節となりました。実りの秋に、町の一年の歩みを振り返る決算審査。皆さまの暮らしに予算がどう生かされたのか、審議の内容を分かりやすくお伝えできるよう、紙面づくりに努めました。

また９月には、新竜王小学校と学童保育所が開校し、子どもたちの新たな学びと成長の場が誕生しました。新しい校舎で元気に過ごす子どもたちの姿は、町の未来への希望を感じさせてくれます。これからも、子どもたちが安心して学び、健やかに成長できる環境づくりが期待されます。

議会だよりが、町の今とこれからを考えるきっかけになれば幸いです。皆さまの声を大切に、これからも身近で読みやすい広報を目指します。

議会広報特別委員会

委員長　三宅　政仁
副委員長　鎌田　勝治
委員　若井　政彦
委員　小西　久次
委員　森島　芳男
委員　山田　義明

VEGETABLE OIL INK
環境に配慮し、再生紙及び植物油インキを使用しています